

みなと元町 TOWN NEWS



No. 295

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

3/18(土)・3/19(日)神戸開港150年記念 <海の本屋> イベント開催!!

全国的に「まちの本屋」が激減しているという現実の一方で、<本>という媒体がまちの活性化や集客に大きな役割を担っているという報告がある。

名古屋の「ブックマークナゴヤ」、福岡の「ブックオカ」なども<都市と本>が一体化した例の一つであり、東京「不忍ブックストリート」も今回19回目を迎えるが、商店の軒先を借りて一人一箱分の古本を持ち寄り売り買いする<一箱古本市>を含め、会期中まち全体で本にまつわるイベントが開催され、来客者が本を物色しながらも自然とまち巡りを楽しむ仕掛けが施されており、地元だけでなく他県からも本愛好者を牽引する盛大なイベントに成長している。

本来、個で楽しむはずの読書という行為も、SNSなどの発達発展によって年々その楽しみ方に変化がもたらされるようになった。自分の蔵書を気軽に対面で売ってみたい、個人で本を出版してみたい、好みの本の素晴らしさを分かち合いたい等々、人との関わり方にも本が架け橋となることが分かってきた。またそこに注目し、まちづくり活性化の一役を買って出る様な行政や企業、団体も現れている。

2013年、元町3丁目の海文堂書店が99年の歴史に幕を下ろした。歴史ある新刊本屋の閉店ニュースというだけにはとどまらず、「あたりまえ」の風景として存在していたそのまちの本屋が突然なくなるという衝撃はあまりに大きく、その悲しみとも切なさとも怒りともとれない入り混じった感情を各々が持ったまま、地元神戸だけでなく、全国各地で何度も報道されることとなった。

その後2015年に神戸の出版社、苦楽堂より<～海文堂書店の記憶と記録～>という副題がついた『海の本屋のはなし』(著者:平野義昌)が刊行される。地方の新刊書店の社史という枠を飛び越えて、人のあり方、まちのあり方を問う作品として今現在も深く読み継がれている。

元町商店街4丁目のこうべまちづくり会館は住民主体のまちづくりを支援する拠点として、阪神・淡路大震災の復興期をはじめ、様々なまちづくり活動の場として多くの市民、まちづくり関係者に利用されてきた。こちらでも今後の課題として地域貢献や活性化に寄与するような新たな活用の可能性を探るべく、積極的に社会実験を行う姿勢であり、その中でこの度、神戸市開港150年記念という節目の年にまさに<海>の本屋>復活イベントを開催する運びとなった。<本>を通じて、<人>と<まち>を

再び結びつけ、そこに<心>が生きることを狙いとする企画である。

実際のイベント内容は、神戸の各出版社による新刊本の販売に加え、鳥瞰図師である青山大介氏による『港町神戸今昔鳥瞰図2017&1868』(くとうてん刊行)や神戸の下町ツアーを定期的に開催している下町レトロに首っ丈の会による下町マップの展示販売他、海文堂書店2階の名物古書合同店<古書波止場>も復活。また、両日それぞれに渡って、記念講演会も開催される。

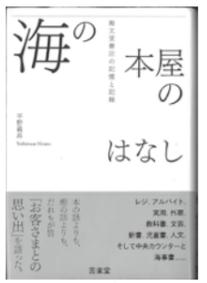
140年の歴史をもつ神戸元町商店街は昔から多くの本好きが集ってきた場所であり、数多くの文学者や小説家を輩出した神戸の中心地としても、今回の開港150年の「神戸と本」にまつわる講演や新刊・古書販売のイベントとしてふさわしい会場である。

～講演案内～ まちづくり会館2階ホール

3/18(土) 13:00～14:30
神戸出身の作家 鳥京子さんによる『神戸の戦後文学について』
(聞き手:兵庫県NIE推進協議会事務局長 山崎整)
参加費:1000円(要予約)

3/19(日) 13:00～14:30
元海文堂書店店長 小林良宣さん、
元海文堂書店店員・『海の本屋のはなし』著者
平野義昌さんによる
『海文堂書店誌紙史について』
参加費:1000円(要予約)

<予約先>
トンカ書店 078-333-4720(13:00～18:00 火水定休)
tonkabooks@hotmail.co.jp
(株)くとうてん 078-335-5965 (10:00～19:00 土日定休)
books@kutouten.co.jp



「元町・夢街道」

洋服の話⑩
顕彰碑

岩田 照彦

東遊園地へ入ったところに顕彰碑「日本近代洋服発祥の地」がある。昭和48年8月、当時、神戸洋服商工業協同組合理事長だった渡邊利雄が、東京の業界記者クラブで顕彰碑建立の発想を得たのはじまる。9月11日の理事會では満場一致で事業の推進を可決、21日には設立発起人會を設立する。

制作者には、元町画廊主・佐藤廉氏の協力で山口牧生・増田正和・小林陸一郎による環境造形Qグループの推薦を受け決定、文化都市神戸の文化向上・市民参加の都市美・洋服業界の建立、この3つの意図を具現するミニユメントの制作を旨とすとした。

製作者から洋服の原型をモチーフにしたデザインが提案され、委員會で承認。公園に置かれる造形としての融和性、近代洋服発祥の地にふさわしい顕彰碑としての高い品位と尊厳、後世に遺す芸術遺産、作品のオリジナリティなど、過去の彫刻作品として取りあげた事のない造形である点、神戸洋服の歴史に似て、当を得た作品とされた。

顕彰碑に「日本近代洋服発祥の地」と刻むため、全日本洋服組合連合会佐藤理事長の承認と事業に対する

る支援も確認、名実ともに日本洋服界の事業となる。学術的な面からも裏付けを得るため神戸洋服商工業協同組合は、近代洋服発祥の地に関する歴史的事実について、日本風俗史学会洋服史の権威者である九州東海大学の吉田元教授に意見を求めている。神戸の史実は近代洋服発祥の地としての歴史をもつもので、日本の全同業界に呼びかけて推進する価値のある歴史的事業、との裏付けを得る。さらに組合は、洋服業界発展の歩みを共にする横浜の神奈川県洋服商工業協同組合との間に姉妹提携もすすめ、名実ともに「日本近代洋服発祥の地」を証明する顕彰碑の建立となったのである。昭和49年10月、理事長・渡辺利雄、顕彰彫刻建立委員会名誉会長・竹馬準之助、顕彰彫刻建立委員会会長・柴田高明3氏がまとめた建立趣意書は、次の言葉で締めくくっている。

太政官発令100年に当る昭和47年(1972)を記念しファッション都市神戸の宣言を背景に、栄光ある先覚者への敬慕と業者一層の精進研鑽とをこの彫刻に託して後世に伝えんとするものであります。

昭和48年11月18日、東遊園地100年祝賀會の日、碑の目録を市長に贈呈した。

伝言板 dengenban

神戸元町商店街連合會のホームページ(H P)をご存知ですか。これまで、元町夢街道など「みなと元町タウンニュース」上の連載記事に限定してH Pに転載されてきましたが、次号から「栄町通クリーン作戦」を含む全ての記事が、神戸元町商店街H P上で紹介されることになりましたのでお知らせします。

編集後記

2月7日(火)午後7時、関西テレビのゴールデンアワー番組「ちやちや入れマッダー」に、大阪の千林・天神橋筋、京都の三条會3商店街とともに神戸から元町商店街が登場した。元町の商店街案内役はハイカラ編集部長の橋本友宏さん。カメラが拾った神戸の幕開けは、5丁目「はた珈琲店」畑芳弘さんが、蝶ネクタイ姿で丁寧に珈琲を注ぐシーンから。お茶屋さんで日本初のコーヒーを売っただけの香堂、全国的に広く親しまれているゴフルの神戸風月堂本店、面白いのは伊藤グリの鮮やかなステークの色合い。元町の「高級・ハイカラ・エレガント」を堪能させてくれる番組だった。乾杯!



栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は2月10日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海3丁目協和會)奈良山喬一、(パナホーム)堀裕臣・北川重雄・鈴木京子、(広島銀行)有田政弘、(トマト銀行)高畑佳織、(兵庫県信用組合)城隆輔・安田紗季(三鈴マシナリー(株))水口裕美子、(神明)實本浩幸、(神明倉庫)藤尾憲弘・十時実希、(大一産業)松井裕香、(銀泉興産)高本巧智、(まちづくり會館)小椋辰海、(新光明飾)中川俊・西村友博・篠原博明、(佐田野不動産(株))佐田野宏之
以上19名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

内科 消化器内科 糖尿病 内分泌・代謝内科 各種健康診断

一般財団法人
サニーピア医療保健協会

サニーピアクリニック

内科外来 平日 8:30～12:00 13:30～16:45
健康診断 平日 8:30～12:00 13:30～15:00

電話 331-6141

併設施設: 介護老人保健施設 サービス付き高齢者向け住宅
登録ヘルパー募集中



海という名の本屋が消えた (40)

平野義昌

喫茶店文化(1)

大正の終わりから昭和の初め、文士や芸術家が繁華街の喫茶店に集まり歓談する。作品を論じ合い、情報交換をした。社交場・サロンとして喫茶店の存在は大きい。兵庫西柳原生まれの映画評論家・淀川長治が思い出を語っている。当時姉が新開地の近くで喫茶店を開業していた。ミルク・ホールはほんとうに牛乳とパンの店だった。それがコーヒーやトースト、ドーナツも出すようになる。「喫茶店」を「キッチャテン」と読む人もいた。

《……ミルク・ホールが次第にたべものの店というよりも“おしゃべりを楽しめるミルク・ホール”となり、この昭和の初めのころにはその店の呼び方を、キッチャテン、やがてキッサテンとなってきてミツマメやソーダ水なども出すようになった。》註1

喫茶店がいろいろなものを提供できるようになり、モダンボーイ・モダンガールが愛用する「小さな社交場」になる。

神戸では明治の初めに元町の茶商(放香堂)が「珈琲」を出した。居留地の外国人の影響で紅茶やコーヒーが一般市民の生活にも普及した。コーヒー豆輸入・販売をビジネスチャンスととらえた青年たちも出現した。現在も神戸には最大手のコーヒー販売会社があり、独自の焙煎方法を開発した会社もある。コーヒー専門店を名乗る喫茶店も多い。

前回元町通の喫茶店として(三星堂薬局喫茶部)が登場した。なぜ薬局と喫茶店が結びついたのだろうか。喫茶店文化に詳しい画家・林哲夫の本を参考にする。註2

古今東西、茶は薬効のある飲料として用いられてきた。滋養強壮剤や眠気覚まし、興奮剤の役目もあった。宗教儀式にも用いられ、茶の湯は禅宗の作法から発達した。往来や寺社門前の茶店で一服するという習慣もあった。

コーヒーはアラビアの宗教者集団の薬物から信者たちに普及して飲料となった。16世紀初め、ドイツ人医師の推奨によってヨーロッパに伝わる。コーヒー豆は貴重な薬品として薬局で販売され、胃薬や二日酔いの薬として推奨された。1655年イギリスでコーヒーハウスを開いたのは薬剤師で、カフェと薬局は一体だった。

林は三星堂薬局のマッチラベルを紹介している。片面に主力商品・養毛剤の宣伝、もう片面には(喫茶のピカール 元町六 三星堂)とある。

株式会社三星堂(現在医薬品・医療機器卸売事業「メディパルグループ」)は社史を4度刊行している。ページを開いてみる。註3

1898(明治31)年、元町通6丁目で堺市の薬種問屋の長男・熊田佐一郎が(熊田三星堂薬舗)を開業した。日本は第一次世界大戦の影響で好況だったが、戦後はその反動に陥る。三星堂も好不況の大きな波を受けた。1923(大正12)年、熊田が一線を退く。新会社を設立し、難局打開策としてソーダファウンテンを設置する。アメリカのドラッグストア発祥、ソーダ類

などを用意するカウンター設備で、1902(明治35)年に東京銀座の資生堂薬局がいち早く開設し、賑わっていた。三星堂でもたちまち人が集まった。

《薬品売り場の一角に五、六卓のテーブルを並べ、アイスクリーム、ソーダ水、コーヒ、紅茶などを売った。ソーダ水のシロップはコココーラ、ペパーミント、イチゴ、レモンなど、ドラッグストア形式の新企画は元町通りの人気を集め、押しかけるお客がさばききれず、通りに椅子を持出して応接することもあった。元ぶら文化人のたまり場にも愛用され、大阪方面からわざわざ出向く客もあった。》註4

この事業の成功によって、株主総会で増資が決まる。翌24年、社屋を改造して、2階すべてをソーダファウンテン部に拡張した。

《店は数十人が入れるほどの広さとなり、そのなかに馬蹄型のテーブルや皮張りの椅子を置いた。1階の屋根の上に大きな網を張って枯山水の庭をつくり、そのなかにカナリア60羽を放し飼いにするなど、設備も実に凝ったものであった。当時としては画期的な婦人化粧室まで備えていた。》註5

この後、日本各地の薬局にソーダファウンテンが誕生した。

昭和初期の三星堂ソーダファウンテンについて、作家・及川英雄(1907~75)、俳人で郷土史家・岸百舛(?~1962年頃)、元重役さんが座談会で話している。

《及川 あの時は、おたののコーヒーはあんまり高くなかったんです。十五銭でした。僕が覚えているのは、おたかへ一人行くときとコーヒー茶わん、ところが二人以上行くときとポットに入れてくれるんです。(中略、金がないので2人分注文して茶わんを人数分出してもらう、ボーイさんも気を利かしてくれる) 森本倉庫の森本さん、これはご承知でしょうか、年いった人だが、自分の息子のようなものとしかつき合わない。われわれ文学青年に理解あるおっさんです。「来よったで」というようなことで、網張っておった思い出がありますかね。(中略)

及川 三星堂のまねをして、その後できましたけれども、できましたというても元町の通りに喫茶店が何ぼ、十軒もなかったんじゃないですか。「本庄」ができましたな。三星堂というのは、ハイカラじゃなかったけれども、私の印象では、とにかく便所に香脳油というきつい薬があったこと。それと、まず一番早くあいう喫茶店に手ふき金を置いた。ふくとパツとみなかごへほうるんですよ。これは三星堂だけの印象で残っています。

岸 何か大まかな、どっしり、荘重なんですね、わり方。ソファーでも皮でそんなの使っているうちはなかった。僕ら、これは事務所か応接間の古手使ったと思ったんです。(笑)

及川 それとなんでしょう。喫茶店で絵かきの個展、小品展をやったのも、三星堂がはじめてじゃないんですか。

岸 飾り気がないから、壁面が広いんです。いま中段に植木だなみたいなものつくったりするでしょう。何にもないからひろかったですね。

及川 画廊喫茶の皮切りですよ。註4

衛生と女性客を重要視したこと、芸術に理解があったこと、ポットのサービス、などなど店の特徴がわかる。

ポットサービスの話題は元町商店街店主たちと市長・文化人らとの座談会でも出てくる。《片山 6丁目の三星堂にソーダホールが出来て、若い文士がよく集まったと聞いていますが、竹中先生はいかれましたか。

竹中 学生時代によく行きました。

片山 ハイカラな店でしたね。

(中略)

宮崎 三星堂は2階へ上がるんですね。

野網 3人で行って2杯注文するんです。それでポットに入れてきて、コップを3つ持ってこさせ2人分で3人飲めるわけです。砂糖は入れ放題だったしね(笑)。》「竹中」は詩人・竹中郁、「宮崎」は神戸市長・宮崎辰雄)註6

淀川も中学生時代にここに通っていた。紅茶を注文すると、ミルク、砂糖の他、小皿にレモンのうす切りが2枚のってくる。友だちを連れて行ったら、いきなりレモンを食べて、酸っぱいと泣いた。註7

三星堂薬局は本業ではないソーダファウンテン事業で神戸文化史に名を残すことになる。だが、この事業は薬局だからこそ実現したと言える。元町通6丁目の薬局所在地は神戸市に寄贈され、現在公園になっている。

註1 淀川長治「喫茶店のこと」『ユリイカ』青土社1987.4月号初出、『淀川長治集成IV映画の(道)、人生の(道)』芳賀書店1987年所収)

註2 林哲夫「喫茶店の時代」(編集工房ノア2002年)

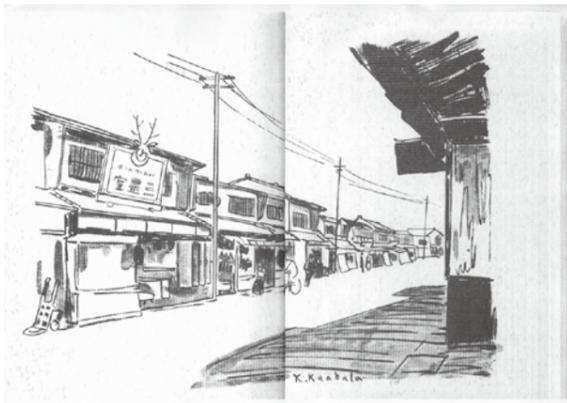
註3 『三星堂六十年小史』(1958年)、『風雪七十年 三星堂社史』(1968年)、『第三の創業 三星堂八十年史』(1978年)、『三星堂100年史』(1999年)

註4 上記『風雪七十年』

註5 上記『三星堂100年史』

註6 『こうべ元町100年』(元町地域PR委員会 1971年)

註7 淀川長治「コウベ慕情」(『旅』日本交通公社1973年3月号初出、『私はまだかつて嫌いな人に逢ったことがない』PHP研究所1973年所収)



出来事ファイル (No.17-3)

■メモリアルウォーク

巡ってきた1月17日、阪神淡路大震災の日。大倉山公園からHAT神戸なぎさ公園まで、元町商店街を経由するコースを歩くみなさんのため、元町商店街では6丁目入り口にテーブルを置き、連合会の理事長が今年も中心になって、ウォーク参加者にお茶のサービスを実施した。今年の参加者は700名規模、全員、元氣な足取りで東へ向かって行った。



写真:神戸新聞より

■3丁目空きビル解体計画明らかに

元町通3丁目の走水通に面して建つ5階建てビルが、数年来、空きビルのまま放置され、壁面装飾部の落下が懸念されることから、神戸市ではビル前の道路を通行止めにした上、周辺への立ち入りを禁じる標識を掲示していたが、このほどビル持ち主が訪れ、取り壊しされるのが明らかになった。更地になった後は、駐車場として利用される予定。



写真:神戸新聞より

■「こうべ元町100年」など贈呈の明石市立図書館開館

社史・地域の記録誌などの収集に力を入れる「明石市立図書館」の要望に応じ、元町商店街連合会でも「こうべ元町100年」と140年史にあたる「神戸の良さが元町に」を贈ったが、同図書館が1月27日、明石駅前再開発ビル4階にオープンした。1フロアを使った広くて明るい開架式。同市では、同図書館を中心に「本のまち」事業を推進する。



■元町北通「笑食い2017」開催

元町北通に店を構える「鶏バル」代表の大西啓太氏は、1月16日(月)~22日まで、元町北通を中心に展開する飲食店に声をかけ、「笑食い2017」を開催した。500円(ワンコイン)メニューを提供することを前提に参加店を誘い、サントリーやFMムーブ、神戸大学、神戸山手大学などの協力も得、1~2丁目を中心に参加企業を集め展開した。



写真:神戸新聞より

■東京の商談会に6丁目・片山喜市郎氏が出店

トヨタ自動車の高級車「レクサス」が、日本の技術を広め地域活性化につなげようと、公募などで52人を選び、若手職人の工夫をこらした製品をバイヤーに紹介する催しが1月18日東京都内で開かれ、兵庫県から元町6丁目革製品を製造販売する片山喜市郎氏が選ばれ出展、男性向けに色とサイズのオーダーメイド対応のスニーカーを紹介した。



写真:神戸新聞より

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 3月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL.331-7850

水曜日 3月15日(水)9時~19時

◇風月堂ホール(有料) TEL.321-5555

もどまち書庫「恋雑亭」

3月10日(金)

笑福亭 鉄瓶 桂 吉坊 笑福亭 岐代松

桂 春若 桂 楽珍 桂 文之助

前売券:2月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

3月3日(金)~3月7日(火)

第4回透明水彩画教室の仲間展(透明水彩)

3月9日(木)~3月14日(火)

第32回逢洋会(洋画展)

(油彩・水彩・ペン画・パステル等)

3月16日(木)~3月21日(火)

第7回グループソフィア展(油彩・水彩)

3月23日(木)~3月28日(火)

竹田真・永田収合同作品展

「再現グラフィックと写真で見る神戸三ノ宮

■「神戸タータン」元町から

元町商店街6丁目革製品の製造販売を手掛ける連合会青年部の片山喜市郎部長は、神戸六甲アイランドで洋服店を営む石田原弘氏と組んで、神戸の街全体の統一感のある柄として、港の青・真珠の白・タワーの赤・六甲山の緑・アスファルトのグレーを組み合わせて「神戸タータン」柄を考案、「神戸タータン」として市内で広める事業に乗り出した。



写真:神戸新聞より

■「ちゃちゃ入れマンデー」元町商店街登場

2月7日(火)19時から関西テレビの「ちゃちゃ入れマンデー」に、大阪の天神橋筋商店街・千林商店街、京都の三条会商店街、神戸からは元町商店街が参加して、商店街それぞれの個性を、商店街にふさわしい店で紹介する番組。大阪の2商店街は、庶民に親しまれる下町ムード、京都は歴史を前面に。神戸は自慢のハイカラで対応した。



写真:神戸新聞より

の昔の姿)~私たちの知らない昔の三ノ宮

3月30日(木)~4月4日(火)

《施設改修工事》

◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

3月4日(土)~3月10日(金)

『函館珈琲』・『劇場版BiS誕生の詩』

『WHO KILLED IDOL? -SiS消滅の詩-』

3月11日(土)~3月17日(金)

『うさぎ追ひし 山極勝三郎物語』

『狂い咲きサンダーロード』

3月11日(土)~3月24日(金)

『月光』・『風に濡れた女』

『ジムノペディアに乱れる』

3月18日(土)~3月31日(金)

『追憶』

3月18日(土)~4月7日(金)

『アシュラ』

3月25日(土)~3月31日(金)

『イスラム映画祭2017』

3月25日(土)~4月7日(金)

『牝猫たち』・『アンチポルノ』